

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104308
法人名	有限会社メディケアサポート
事業所名	グループホームわかば
所在地	愛媛県松山市若葉町7番6号
自己評価作成日	平成28年 8月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者が介護される側だけにならない様に、一人ひとりができる事は自分で行い職員・入居者とも助け合いながら楽しく生活出来るようにしています。
近隣にスーパーや神社・公園があり、お花見や散歩・初詣など楽しんでもらえるようにしています。
町内のお花見や地域の運動会に参加し地域交流もできるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ユニットごとに献立を立て、利用者と一緒に近くのスーパーまで買い出しに出かけている。普段の会話や新聞の広告を見ながら、食材選びや献立に活かしている。週2日は、新鮮な魚を鮮魚店から届けてもらい、魚と肉をバランスよく採り入れている。昼食時には、利用者にとって懐かしい曲をオルゴール音で流していた。又、職員は、献立の説明を行ったり、下ごしらえをしてくれた利用者にお礼を伝えていた。ランチョンマットを敷き、食器は陶器のものを使用している。食後は、下膳や台拭きをしたり、全員のランチョンマットをまとめてしまう利用者の様子が見られた。
近所に公園が2ヶ所とスーパーがあり、日常的に歩いたり、車椅子で出かけている。事業所の畑で野菜作りをする利用者があり、ホームセンターへ苗を買いに行ったり、世話したりできるよう支援している。1月には、近くの神社に初詣に出かけており、椿祭りに出かけることも恒例になっている。重度の方には、ベランダで外気浴したり、車椅子で敷地内に出たりできるよう支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム わかば

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 森 莉映子

評価完了日 平成28年 8月 25日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各フロアとスタッフルームに掲示し、全職員が周知し実践できるように意識している。	
			(外部評価) 平成25年に見直し作成した理念、「家庭的な環境と地域の交流のもと 笑顔とやさしさあふれる穏やかな暮らし 個性を重視し健康で生きがいもてる生活 地域に支えられ地域と共に生きるふれあいづくり」を居間やスタッフルームに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事(盆踊り・運動会・文化祭・お花見など)に参加し交流を図っている。また、運営推進会議に参加していただくことで、情報交換や交流が出来るようにしている。	
			(外部評価) 町内会行事に参加して、利用者が地域の方と交流する機会を作っている。秋祭り時には、神輿の休憩所として駐車場を提供しており、法人代表者は、神輿のかき手としても協力している。法人全体で毎年行う納涼祭は、地域の方や家族を招待して、楽しみながら交流できるよう企画している。高校生のボランティアを受け入れている。系列デイでは、介護セミナーを定期的で開催しており、テーマによっては、運営推進会議のメンバーにも案内をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の方に参加していただき、地域の皆様に施設の状況などを報告することで、ご理解していただけるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議にて、入居者の状況や施設の行事などを報告し職員では知らなかった昔ながらの行事について情報をいただいたり、参加者から地域の行事を知らせてもらうなど、ご意見を活かせるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 会議時、地域からは、町内会長・副会長・相談役、隣接する地区の3名の民生委員、近所の住民等が参加している。毎回、参加者の自己紹介、利用状況や行事・研修報告を行い、又、テーマを決めて意見交換を行っている。メンバーからは、地域行事の案内がある。市役所支所長を招き、地区の高齢者の状況や地域包括ケアシステムについて説明してもらったこともある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1回の運営推進会議に参加して頂いている。また、日頃から電話や出向いて連絡をとり、コミュニケーションが取れるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、テーマに沿って意見やアドバイスがある。地区のグループホーム連絡会に参加しており、同業者と情報や意見交換を行っており、他事業所の運営推進会議や家族会の現状を知る機会にもなっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間以外は玄関・エレベーターの施錠はせず、安全に注意しながら見守りができるように取り組んでいる。社内研修で身体拘束について学び禁止の対象となる行為が理解できるようにしている。	
			(外部評価) 年1回、外部講師を招き身体拘束の研修を実施している。入居間もない頃は家族の同意を得て4点柵を付け対処したケースもあるが、動きの傾向を把握して話し合いを重ねて柵を外し、現在はセンサーマットで対応しているケースがある。利用者の出かけた様子があれば、職員と一緒に散歩に出たり、ユニット間で交流できるよう支援している。エレベーターの開閉時には、チャイムが鳴り、出入りが分かるようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に1回外部講師による社内研修を行い学ぶ機会をつくっている。今年度は10月18日を予定している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 2階では成年後見人制度を利用している方はいないが、3階には利用している方が1名いる。今後、外部講師による社内研修を計画予定。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 不安な点がないよう十分な説明をおこない、改正時には説明と共に同意書をいただくようにしている。ご理解していただいたうえで実施をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議への参加を呼びかけ、出来る限り参加していただきご意見・ご感想などをいただくようにしている。 (外部評価) 毎月、近況報告の手紙と事業所便りの「わかば便り」を送付し、利用者個々の状態や暮らしぶりを報告している。来訪時には、日頃の様子を報告して、ケアや暮らしについての要望や意見を聞いている。家族それぞれに理由があり、現在、運営推進会議への家族参加に至っていない。	事業所を実際に利用する利用者や家族の意見等を聞けるように、運営推進会議に参加できるよう工夫を重ねてほしい。法人代表者と管理者は、今後、家族会の必要性についても検討していた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			主任会・各フロアミーティングを行い、職員の意見を聞き反映できるように話し合いをしている。職員との個別面談の場も持つようにしている。	
			(外部評価)	
			年間計画を立て2ヶ月に1回、外部講師を招いて職員研修を実施している。職員には、事前に学びたい内容についてアンケートを取って反映している。今年は、介護労働安定センターの新人介護職定着促進プロジェクトに参加し、職員のスキルアップや職場環境の改善に取り組んでいる。現在、職員間や利用者とのコミュニケーションに、「笑顔」をテーマに挙げて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			主任会に出席、さらに管理者が行った個別面談の内容を報告・把握し職場の環境・条件の整備ができるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			2ヶ月に1回外部講師による社内研修を行い学びの場の提供している。また、外部の講習の案内が事務所よりあれば掲示し全職員に参加案内が出来るようにしている。現在新人介護職員定着プロジェクトに参加し取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム連絡協議会に参加し交流するよう機会をつくり、質の向上が出来るよう取り組んでいる。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に事前面談をし不安に思っていることや要望を聞き安心して生活出来るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に面談を行い家族の要望などを聞き、ホームでの生活等を説明して心配事の無いように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に面談した時の要望などを取り入れ、本人が必要としているサービスが提供できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事などそれぞれの方が得意な分野を活かしながら、本人ができる事や好きなことを職員と一緒にできるように良い関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には現状報告を行い、ご家族からの意見も聞いている。何かあればすぐに電話連絡をして信頼関係を築くようにしている。毎月ご家族に近況報告の手紙などを送るようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅近くのお寺やお店にいけるように外出支援を行っている。また、地域の行事に参加し知人に会える機会をつくり関係が途切れないように努めている。ご家族や友人が面会に来ていただいている。 (外部評価) 夏越祭等の昔ながらの行事に参加できるよう支援している。雛形を枕の下に敷き、地域の神社に納めて健康祈願した。お盆には、迎え火・送り火を焚き、先祖を思い皆で手を合わせている。受診に知人が付き添ってくれているようなケースがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 家事や作業など出来ない方の分を得意な方に手伝っていただくようにしている。レクリエーションで入居者全員が合唱や体操をしたり全体でできる事を工夫している。耳の遠い方との会話は職員が間に入り関われるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了した後も、本人やご家族の相談や支援に努めて、より良い関係が続くようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話やアセスメント時に希望や意向を聞きケアプランに反映している。またモニタリングや日々の生活の中の会話などから把握できるように努めている。困難な方は、家族から話を聞いたり表情や様子を観察して把握に努めている。	
			(外部評価) 入居時、事業所独自のチェックポイントシートで、本人、家族から思いや希望を聞き取り、アセスメントシートを作成している。さらに、日課計画表の24時間シートや私の姿と気持ちシート等を用い、個々の思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントで家族や本人から話を聞き、今までの生活歴や暮らし方・生活環境を聞いている。また普段の生活の中でも会話の中などから聞きだし把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定・体重の管理・残存能力など生活の中で観察し把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月1回のミーティングを利用し、ケアカンファレンスを行っている。モニタリングを行い、評価と課題・ケアの方針を話合っている。家族が面会に来た際に意見や意向を聞き、ケアプランに反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、本人、家族から聞き取った希望や要望と、職員が日々把握した利用者の情報とともに、本人の視点で検討し作成している。日々の記録には、本人の言葉や様子、支援内容を具体的に記入している。特に、気になることやいつもと違うことは、皆で共有できるようにラインマーカーを引いている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録だけでなく、申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有が出来るように、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族に対してカンファレンス・アセスメントを行い、新しいニーズに柔軟に対応できるケアプランを作成し提供している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議などを通じて地域の方々と協力できるように働きかけいる。消防署協力のもと避難訓練を実施したり地域との防災訓練に参加させていただくなどし地域資源との協働に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関の往診を受けているが、入居前から通院されている病院がある方は家族と話し合い希望にそえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者は隣接する協力医院で診てもらっており、状態変化時等には、主治医や看護師にいつでも相談したり診てもらえるような体制が整っている。2週間に1回往診があり、他の週は看護師の訪問がある。毎年、健康診断を行っており、体重増加が顕著な方には、主治医から食事指導があり、食事量の調整等を支援するケースがある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) グループホームには現在看護師はいないが、協力医療機関のナースに気になったこと・いつもと違うことなど状態の変化があればすぐに報告・相談ができるようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時には介護サマリーを作成し情報提供している。また、面会に行った時に、情報交換するようにしている。主治医やご家族と相談し対応できるように努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時にホームでの終末期の対応などについて説明し、ご家族に入居時の方針を確認するようにしている。実際に終末期対応が必要になった際は、主治医・ご家族・ホームで意思の確認を行い支援していけるように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) この2年間で1名の利用者の看取りを支援した事例がある。入居時には、終末期の希望を聞いており、利用者、家族ともに、「最期までここで」と希望している。なかには、本人からの「自宅に帰りたい」との強い希望のもと、家族と相談して最期を自宅で過ごせるよう、在宅医療機関を紹介して橋渡し等を行い、支援した事例がある。自宅に戻った後も、管理者や職員は本人に会いに行き、家族の精神的負担が軽減できるよう支えた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 誰もが同じ対応が出来るようにマニュアル化して、急変・事故時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練には運営推進会議の役員さんも参加して下さっている。緊急連絡網に町内会長さんの連絡先もいれさせてもらっており災害時には連絡が取れるようにしている。 (外部評価) 11月の運営推進会議後、消防署立ち会いのもと、夜間の火災想定で避難訓練を行った。事業所に設置しているサイレンを流し、地域の協力者には自宅から駆けつけてもらった。いざという時には、非常階段からの避難誘導や見守りを願っている。5月には、建物内の系列デイと連携して訓練を行った。様々な災害に備えて、消防署に相談しながら地震・風水害マニュアルを作成して、職員間で共有している。地域の防災訓練時には、職員が参加して事業所の車椅子を貸し出した。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 性格や習慣などに配慮し、人格を尊重した言葉遣いや対応をするよう心掛けている。時には、方言など入居者が理解しやすい言葉を使うように気をつけている。 (外部評価) 言葉で表すことが難しい利用者については、日頃から発語の具合や目の動き、動作等の反応を細やかに捉え、気持ちを汲み取りながら支援を行っている。利用者への声かけについて「馴れ合いになっているのでは」と感じている職員もあり、ユニットによってはミーティングのテーマに挙げて話し合いを行っている。	利用者に対する言葉かけや対応については、ケアの質にも大きくかわかることであり、利用者の立場に立って職員個々が振り返ったり、点検したりできるような機会を定期的なように、仕組みを作ってはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望を言いやすい環境を作り声かけし、自分の思いでいろいろなことが決められるように働きかけている。選択肢を狭めて自己決定しやすいように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりの生活のリズムが崩れないよう注意しつつ、自分のペースで時間を過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 約2ヶ月に1回美容師の方に来てもらい好みの髪形にカットしてもらっている。洗顔後は化粧水・乳液をつけ整容される方もいる。衣服は季節に合ったものがきれいよう配慮しつつ、好みの服が着られるよう入居者に選んでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好きな物・嫌いなものを日常の会話の中から聞き出し、献立に取り入れるようにしている。テーブル拭きやランチマット並べなど食事の準備の手伝いをしてもらっている。 (外部評価) ユニットごとに献立を立て、利用者と一緒に近くのスーパーまで買い出しに出かけている。普段の会話や新聞の広告を見ながら、食材選びや献立に活かしている。週2日は、新鮮な魚を鮮魚店から届けてもらい、魚と肉をバランスよく採り入れている。昼食時には、利用者にとって懐かしい曲をオルゴール音で流していた。又、職員は、献立の説明を行ったり、下ごしらえをしてくれた利用者にお礼を伝えていた。ランチオンマットを敷き、食器は陶器のものを使用している。食後は、下膳や台拭きをしたり、全員のランチオンマットをまとめてしまう利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・およその水分量を記録し水分不足にならないよう気をつけている。食事の盛り付けの際は、それぞれの方にあつた食事量が提供できるよう配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけをし、出来る方には自分で困難な方は介助し口腔内の清潔を保持できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記録し排泄パターンの把握に努め、トイレで排泄できるように誘導している。夜間紙パンツを使用されている方も昼間は布パンツを使用できるようにしている。	
			(外部評価) 日中はトイレで排泄できるよう支援している。入居間もない頃は、利用者の排泄のサインや傾向を注意深く観察して、日々の申し送りやフロアミーティング時に情報共有をしている。排泄備品についても必要性、適切性について随時見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分不足に注意し、野菜や食物繊維の多い食材を使用するようにしている。ヨーグルトなどの乳製品を食べてもらうようにしている。トイレでの、腹部マッサージを行っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回程度の入浴を目安にしている。本人の体調や気分に合わせて入浴してもらっている。	
			(外部評価) 浴槽は一般的な家庭サイズで、またぐのが難しい半数ほどの方については、肩からバスタオルを掛けて、足浴しながらシャワー浴で支援している。利用者の状態を踏まえて、今後の支援のあり方について検討しているところであり、「入浴を楽しむ支援」という観点から、職員の負担の軽減も含めて、個々の習慣や好みを採り入れた支援の取り組みをすすめてほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中疲れのみえる方や希望がある場合は、昼夜逆転しないよう配慮しつつ居室で休んでいただいている。居室の明るさや室温を整え安心して気持ちよく休んでいただけるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果や副作用についての情報がすぐに確認できるように個人ファイルに綴じてフロアに置いている。薬の飲み込み確認を行い異常があれば医師に報告するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事や簡単な作業など昔していたこと・できる事を職員と一緒にするようにしている。歌を唄ったり外出したり、一人ひとりの嗜好を取り入れた気分転換が出来るようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には散歩や野菜の水やりや買い物に出かけている。買い物際にはおやつを選んでもらうこともある。また、車でのドライブも計画している。	
			(外部評価) 近所に公園が2ヶ所とスーパーがあり、日常的に歩いたり、車椅子で出かけている。事業所の畑で野菜作りをする利用者があり、ホームセンターへ苗を買いに行ったり、世話したりできるよう支援している。1月には、近くの神社に初詣に出かけており、椿祭りに出かけることも恒例になっている。重度の方には、ベランダで外気浴したり、車椅子で敷地内に出たりできるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談し、本人が管理できる金額を所持してもらい買い物に出かけたときには使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙は読めない方には代読させてもらっている。電話はホームの電話をいつでも使用できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) カーテンやエアコンを利用し、温度調整や光の加減の調節をおこなっている。壁には季節を感じられるように季節に合わせた掲示物を作成し掲示するようにしている。TVや音楽の音量も入居者賀不快に感じないようにも気を配っている。</p> <p>(外部評価) 利用者が自由に使えるように、虫めがねや新聞、ランチョンマット、レクリエーションの道具等を場所を決めて収納している。居間は、南向きで明るく、掃き出し窓からベランダに出られるようになっており、職員と利用者が協力して洗濯物を干している。台所は対面式で、台所の様子がよく見えて、食事ができる匂いがする。調査訪問時には、食卓テーブルで昼食の下ごしらえを行う方や、パズルや将棋をして過ごす方の様子が見られた。神棚を祀っており、水を替えたり拝んだりする方もある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ソファをおいて自由に座って話ができるようにしている。特に1人になれる場所は作ってはいないが一人でソファに座られたり居室行き過ぎされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使用していた家具を使用したり、自宅で好んで飾っていた壁飾り飾ったり心地よく穏やかに過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には、職員手作りの表札を付け、暖簾をかけている。家族の遺影に水やお供えをする方や、机で趣味の切手コレクションを整理する方がいる。家族が思い出の写真を定期的に持参し、見て楽しめるよう飾っているような居室があった。日常で撮影したベストショットの写真を各居室のボードに貼り、家族に見てもらえるようにしている。家族は、気に入った写真を持ち帰ることができる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室やトイレの入り口に表札をつけて、人に聞くことなく自分で行くことができるよう工夫をしている。</p>	